

研修成果

今回、私たちは夏休みを利用して秋田県藤里町に行ってきました。藤里町は青森県との県境である白神山地の南側に位置しています。傾聴ボランティアサークル「ごまちゃん」では、毎年冬に藤里町に活動しに行きます。私も去年の冬に行かせてもらいました。以前に訪れた時は藤里の人達の雪かきの手伝いと藤里にある介護施設の見学をしました。そこで、多くの人と楽しく話すことができました。しかし、最初は、秋田弁のなまりのせいで何も言っていることが分かりませんでした。先輩たちにコツを聞くと言っている内容を全て理解することは難しいかもしれないけど、聞き取れる単語をつないでいる程度予想すると会話がスムーズに進むそうです。そして、一番やってはいけないのが適当に相槌をうつことです。こちら側が秋田弁を聞き取ることができなくても相手は標準語を理解聞き取ることができるので、下手に反応すると失礼になってしまうからです。このようなことに注意しながら活動を行いました。一人暮らしをしている高齢者のお宅を訪ねた時は驚きました。積雪が東京の雪とは比べものにならず、それを毎回自分で雪かきしていると当然のように90代のお年寄りが言うのです。いつも東京の介護施設で傾聴をさせていただいている私が知っている「90代のお年寄り」とはまるで違いました。他にも地元の高齢者たちとバレーボールをしたのですが、まるで歯が立ちませんでした。大規模の雪かきのお手伝いをする機会もあり、地域の人達との交流もすることができました。藤里町の地域おこし協力隊の人とも話すことができてより藤里について知ることができました。いろいろな面で東京と秋田の田舎とで比較することができました。

約半年ぶりの藤里町は行く前からとても楽しみでした。冬と同じように夜行バスを使って約10時間かけて到着した藤里町は冬に見た景色とは大違いでした。というのも冬には雪で一面真っ白だった場所が一面緑色になっていて驚きました。東京と比べて気温は低いと思っていたのですが、意外と秋田県も気温が高かったです。藤里町では、ごまちゃんの知名度は高く、若者がそもそも少ないので集団で歩いていると「ごまちゃんかい？よく来たねえ。」と話しかけてきてくれます。冬に来たときは新聞にも載せてもらい、藤里町の人にとっては冬のイベントの一つとして思われているようでした。私はこのことがとても誇らしかったです。これも地域に溶け込む1つの形なのかなと思いました。サークルである限り行く人は毎回固定されているわけではありません。しかし、毎年同じ時期に若い学生が遊びにくることで、継続的に地域の人と繋がることができます。このような人がローテーションしていくような繋がりの方々に興味を持ちました。午前中にバスが到着し、その足で以前来た時もお世話になった藤里の社会福祉協議会に挨拶に行きました。今回私たちボランティアを受け入れてくださった担当の方が以前お会いした人だったので心強かったです。社協のそばにある「ぶなっち」という生活支援ハウスに行きました。そこで生活している高齢者とお話しをすることができました。

もうすぐ藤里ではお祭りがあるそうでみんな踊りの練習を夕方になるとするそうです。残念ながら私たちの滞在中はお祭りの日とはかぶりませんでした。とても盛り上がるそうなので来年はお祭りの日と日程を合わせて来たいと思いました。次に藤里町の「福祉の拠点こみっと」という場所で毎週水曜日に活動している元気の源さんクラブの方々と一緒に交流をしました。そこでは、60歳以上の方が集まり自分の好きな介護予防のプログラムを行うことができます。こみっとでは、運動機能の向上（転倒予防）、食生活（栄養改善）、口の力（口腔ケア）、認知症予防、うつ予防、閉じこもり予防、の6つの柱をもとに介護予防に向け多彩なプログラムを用意しています。実際に利用者に話を聞いたところ、「ここに来ると話し相手がいるから楽しい」や「元気が出る」などの意見がありました。わたしたち学生のことも暖かく歓迎してくれて、一緒に川柳を考えたり伝統的な踊りの練習をしたりしました。さらに、こみっとでは引きこもりや障害などの人が働く場として、食堂があります。手打ちそば、うどん、マイタケきっしゅなどが有名で私たちもおいしくいただきました。昼食後、以前にも対戦した熟年バレーの方々とバレーボールをしました。今度こそリベンジできると思っていたのですが、もうすぐ大会があるそうで皆さんのコンディションが最高だったらしく惨敗しました。そこでも、熟年バレーに参加している高齢者は口を揃えて「ここに来ると仲間に出会える」、「みんなとしゃべれて楽しい」、といます。やはり、こういった高齢者のコミュニティの場はとても重要だと感じました。冬に雪かきのお手伝いをした地域の方々と交流する時間もありました。何人かの方が自分の名前と顔を覚えていてくれてとてもうれしかったです。「みず」という山菜の実を一緒にとりながらお話しをしました。冬にとった写真も用意してくれていたのと一緒にそれを見ながら思い出を共有することができました。高齢者にとって過去のことを思い出すのは難しいけれど、写真や会話した本人と一緒に疑似体験をしながら話すことで介護予防にもなるのではないかと思いました。だんだんと秋になっていくにつれて冬の寒さや雪が不安の方もいたようでした。またお手伝いしに來たいと改めて思いました。途中、お花屋さんによってリンドウというお花をたくさんもらいました。地域の人達の暖かさを改めて感じました。社会福祉協議会に隣接しているデイサービスでも利用者の方々と交流することができました。利用者の中に以前、元気の源さんクラブで私と話しをした方がいて、覚えていてくれたのがとてもうれしかったです。デイサービスでは、一緒に歌を歌ったり、ちょっとしたゲームをして楽しみました。最終日の前日の夜には若者都会と交流会ということで、地域の方と一緒にご飯を食べました。そこには、社会福祉協議会で働いている人や地域おこし協力隊の人など藤里のために働いているいろんな人が集まって、たくさんの興味深い話を聞くことが出来ました。冬に会った地域おこし協力隊の人はもう任期を終えていたそうで、今回は新しく藤里に來た2人の地域おこし協力隊の人が来てくれました。空き家を使って活動をしているそうですが詳しい内容を聞くことができませんでした。社会福祉協議会の職員の人たちとも仲良くなれてよかったです。

今回、私はボランティアサークルの活動として藤里に再訪しましたが、次は地域づくりの視点でも藤里のことを見てみたいと思います。地域おこし協力隊の人とは今回はあまり関わるができなかったのでまたお話しをしたいと思います。冬に行くのが楽しみです。